

～輸血を受けた患者さんのメッセージ～

献血をされる皆様へ。

まさか自分が輸血を必要とする病気になるとは思ってもいませんでした。

16才の時、知人の手術のため献血をして以来、自分も若い頃は年に何度も献血に行きました。人の役に立つとは何となくわかっていましたが、実際に輸血を受ける立場になって、そのありがたさが身にしみてわかりました。

私のような病気では、輸血が欠かせません。本当にありがたかったです。今は、献血ができない体になってしまいましたが、病気もよくなり、日常生活も、問題なく過ごせています。どこかの誰かの温かい気持ちが、私の体で生きています。私は、皆様の心で生きています。本当にありがとうございました。

また、私のような病気では、骨髄移植や さい帯血移植が必要になってきます。私の場合は、骨髄移植はドナーが見つからず、(自分も骨髄バンクに登録はしていたので、自分の所にドナーの案内が来たのは笑うしかありませんが) 残念でしたが、さい帯血移植を行うことができ、今も順調に回復してきています。

どこかの赤ちゃんとその家族の思いによって、私も命をつなぐことができました。感謝の気持ちしかありません。ありがとうございました。

町中で、ベビーカーに乗った赤ちゃんや小さな子供をつれた家族を見ると、「この子かもしれないなあ。ありがとね。」という気持ちがこみ上げてきて、つい、ほほえみかけてしまいます。(怪しい人だ) 皆様の心によって救われたこの命、大切にしていけます。ありがとうございました。